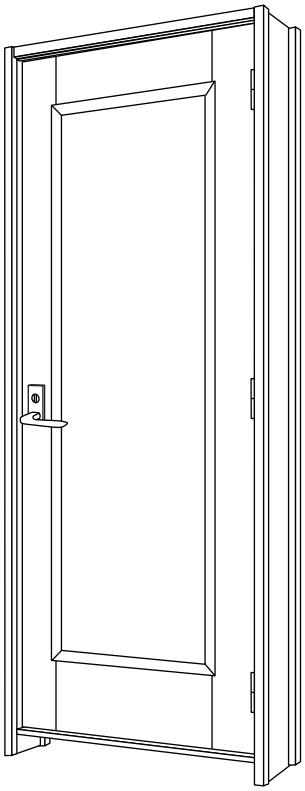
施工後、必ずお施主様にお渡しください。

施工説明書
取扱説明書

ダイケン防音ドア（A防音タイプ）



この冊子には、施工上重要な項目が記載されています。
施工の際にはよく読み、手順通りに正しく施工してください。
又、使用後は必ずお施主様にお渡しください。

大建工業株式会社

ON-D12-130404

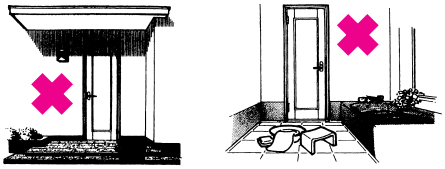
必ずお守りいただきたいこと

⚠ 施工上注意

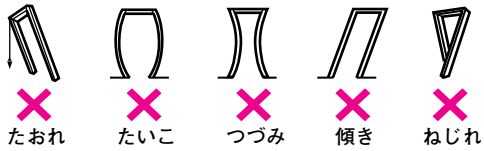
ダイケン防音ドアを長期間安全に使えるように施工するために、またトラブルのない確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

●このドアは一般住宅用の居室用防音ドアです。
玄関等の室外、浴室等の水や湿気の多い部位へのご使用はおやめください。
カラオケボックス等の業務用は防音ドアカラオケ用をご使用ください。

●業務用のカラオケボックスの使用については、地域によって本ドア（木製ドア）が使用できない場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁にご確認ください。

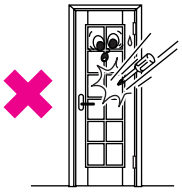


●枠の水平・垂直等建付を確認してから取り付けてください。
防音性能の劣化や開閉不具合の原因となります。
ドアと戸当りのパッキンとの間に隙間が生じる場合は、再度枠の建付を確認して正しく施工してください。



●沓摺、敷居をコンクリートやモルタルに直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、沓摺、敷居と床面の間に必ず防水処理をしてください。

●扉・枠及び金具、ガラスに工具などをぶつけたり、運搬時にひきずらないようにご注意ください。
――傷をつけるおそれがあります。



●ドアストッパーを取り付ける場合、ドア先端部に取り付けてください。

ドアクローザー、開き戸ダンパーは使用できません。

●このドアは特殊な防音ドアですので、レバー操作・開閉力・重量等一般のドアとは異なります。
施工上及び、使用上の注意事項をよく読んで正しく取り扱ってください。

●工事が完成するまでの間、扉は壁にたてかけて保管しないでください。

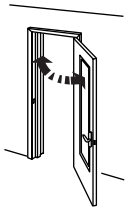
●照明灯、ストーブ等を近づけすぎないでください。
――熱によるシート変色、ふくれ等の原因となります。

●本開き戸は遮音性能を発現させるため、気密性を高めており、24時間換気の通気経路になりません。
部屋単位で換気を確保してください。

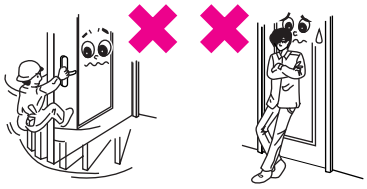
⚠ 使用上注意

本製品を安全に、また末永くご愛用していただくためにご使用前に必ずよく読み、正しい使用法・使用上の注意事項をよく理解してください。この取扱説明書は、いつでも利用できるように、大切に保管してください。

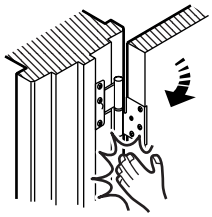
●扉の開閉は、静かに行ってください。
乱暴に扱うと扉が破損したり脱落する恐れがあります。



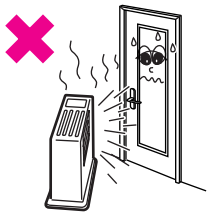
●扉の把手にぶら下ったり、扉にもたれたりしないでください。扉が破損したり、脱落する恐れがあります。



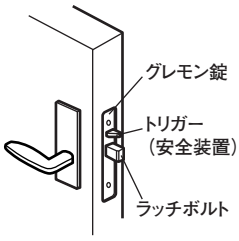
●扉に指をはさまないよう把手を持って正しく操作してください。特に小さなお子様には十分ご注意ください。



●ストーブ等の熱源を近づけないでください。
扉が反ったり、表面がゆがんだりすることがあります。

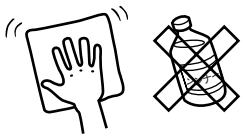


●このドアは特殊な防音ドアですので、ドアが開いている時はレバーハンドルが動かない構造になっています。
ドアが開いているときに無理やりレバーハンドルを回すとグレモン錠の故障の原因となります。
※ドアが開いた状態でも、トリガー（安全装置）を押さえれば、レバーハンドルが作動可能となり、ラッチが出ます。ラッチが出た状態でドアを開閉しますと、ドア枠を傷つける恐れがありますので、十分ご注意ください。



お手入れの方法

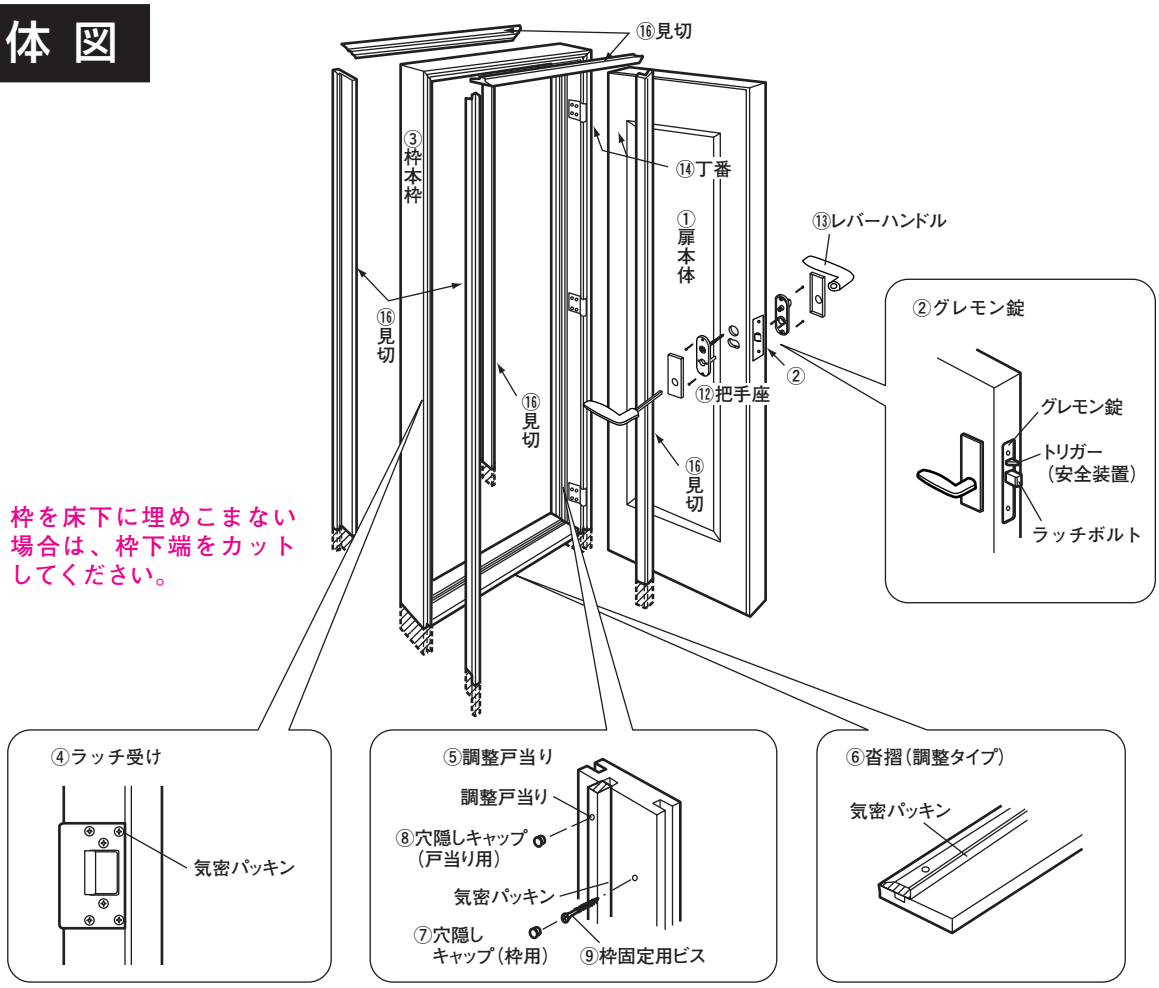
●扉や枠の清掃は、乾拭き又は中性洗剤を薄めて、硬く絞って拭いてください。
シンナー・ベンジン等を使用すると、表面の艶が変わったり、変色する場合がありますので、避けてください。



廃棄上の注意

本製品の施工時に出た廃材（ドア枠及び戸当りの切断片）を廃棄するときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、「廃プラスチック類」と「木くず」の混載物として適性に処理してください。詳細は各自治体にご確認ください。

全体図



部材・部品表

施工前に必ず部品を確認してください。

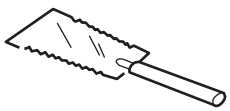
	No.	部品名称	数量	備考
扉セット	①	扉本体	1	
	②	グレモン錠	1	扉本体に取付済
枠セット	③	枠本体	1	4方枠（組み立て完成品）
	④	ラッチ受け	1	枠本体に取付済
	⑤	調整戸当り	縦用　2対 横用　1対	枠本体に取付済
	⑥	沓摺（調整タイプ）	1	枠本体に取付済
	⑦	ビス穴隠しキャップ（枠用）	10個	ポリ袋入り（小：φ＝10mm）
	⑧	ビス穴隠しキャップ（戸当り用）	20個	ポリ袋入り（大：φ＝12mm）
	⑨	枠固定用ビス	10本	ポリ袋入り
	⑩	隙間定規	1枚	枠（ラッチ受け部分）に貼り付け
	⑪	施工説明書・取扱説明書	1冊	必ずお施主様にお渡しください。
把手セット	⑫	把手座	1	
	⑬	レバーハンドル	1	
丁番セット	⑭	丁番	3	上用、中用、下用　各1
	⑮	丁番取付ビス	24	φ3.8×24
見切セット	⑯	見切	縦用　4 横用　2	壁厚に合わせてサイズをお選びください。

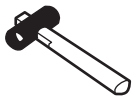
施工の流れ

詳細は4〜8頁をご覧ください。

手　順	ポ　イ　ン　ト
1.確認	・開口部の寸法を確認する。 ・部品、部材、同梱品を確認する。（本紙の部材・部品表参照）
2.準備	・納まり寸法に合わせ、枠下端をカットする。
3.枠取付け	・枠を開口部へはめ込み、下げ振り・水準器を使い、水平・垂直を確認する。 ・同梱のビスにて枠を躯体へ取付ける。 ・枠の取付け精度（建付け）を確認する。
4.扉取付け	
5.把手座及び、レバーハンドルの取付け	・レバーハンドルは、専用治具又はマイナスドライバーをレバー根元に差し込みはずしてください。
6.レバーハンドルの作動確認	・扉を開いた状態で、グレモン錠のトリガー（安全装置）を指で押さえたまま、レバーハンドルを回し、ラッチボルトの作動を確認してください。 ※トリガー（安全装置）を押さえていない状態では、レバーハンドルが動かない構造になっています。
7.隙間のチェック	・付属の隙間定規で枠と扉の隙間を確認する。（設定寸法全周4mm）
8.枠の固定	・枠を隠しクギ等で躯体に固定する。
9.扉開閉チェック	・扉を開閉し、パッキンの密閉や開閉力をチェックする。隙間があればドア枠の建付けを調整する。
10.調整	・必要があれば丁番で扉の左右方向、上下方向、前後方向を調整する。 ・必要があればラッチ受けで前後方向を調整する。 ・必要があれば戸当りで前後方向を調整する。 ※戸当り調整後穴隠しキャップ（戸当り用）を取付けしてください。
11.見切の取付け	・納まり寸法に合わせ見切をカットし、木工ボンドを使用し仮釘で固定する。
12.扉、枠、金具の養生	・ダンボール、ミラーマットなどで扉他を養生する。

使用工具


のこぎり


金づち

電気ドリル

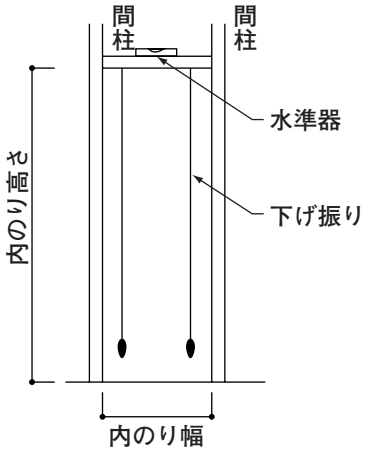
ドライバー

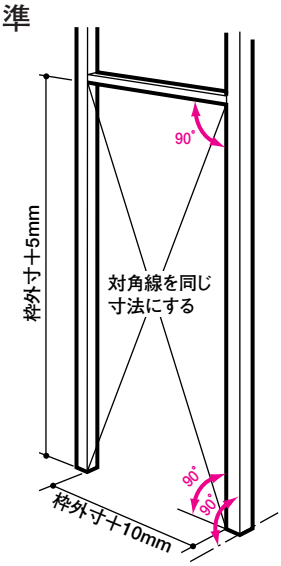
下げ振り

水準器
など

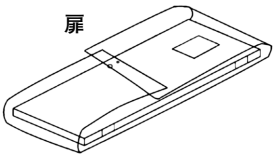
準 備

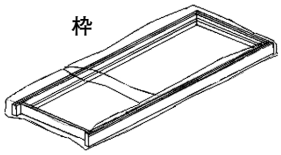
●開口部の幅・高さの寸法を十分に確保してください。
●柱の垂直、床・まぐさの水平を下げ振り・水準器でよく確認してください。

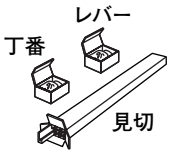




梱包を開けて部品を確認してください。

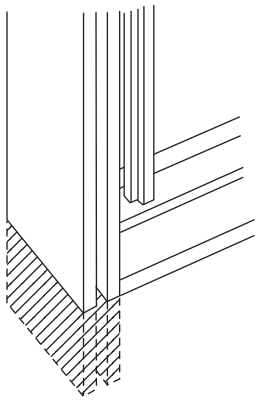






施工前に

枠を床下に埋めこまない場合は枠下端をカットしてください。



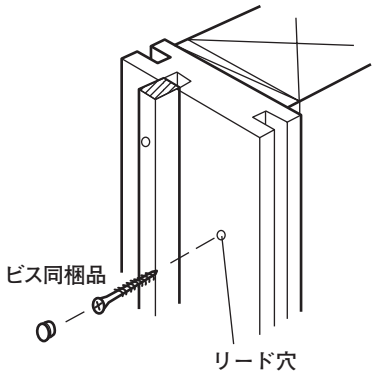
施 工 手 順

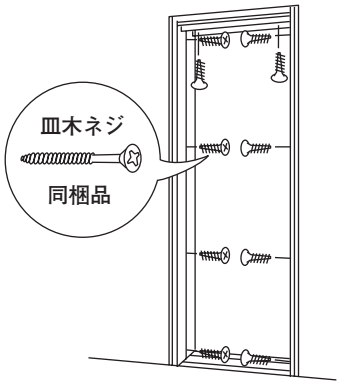
1 開口部への枠の取付け

⚠注意 本体の前後、左右の傾き、上下のズレ、枠の変形（たいこ型、つづみ型）がないかチェックし、異常があれば調整してください。

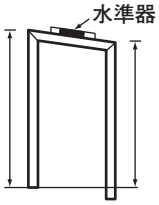
⚠注意 調整丁番は施工後の経時変化のための微調整ですので枠の調整はしっかり行ってください。

⚠注意 下記のようなことがあった場合扉が閉まらない場合があります。枠の水平・垂直を必ず確認してから取付けてください。



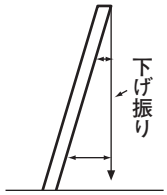


上下のズレ



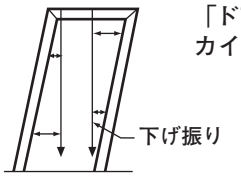
「ドアが閉まらない」
「ドアを閉め込んでもレバーハンドルが回らない」原因になります。枠を釘や木ネジで固定してください。
ビスをゆるめて、上下のズレを直してください。

前後の傾き

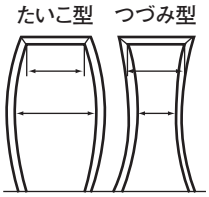


「ドアを閉め込んでもレバーハンドルが回らない」、
「レバーハンドルを回すのがかたい」原因になります。
ビスをゆるめて垂直に直してください。

左右の傾き



「ドアが枠に当たる」原因になります。
カイモノで垂直に直してください。



「ドアを閉め込んでもレバーハンドルが回らない」
「ラッチボルトが掛からない」
「ドアが枠に当り閉まらない」
原因になります。カイモノを当てるか、釘やネジで枠を固定して直してください。

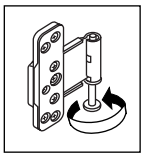
2 扉の吊り込み

①扉に扉側丁番を同梱のビス（φ3.8×24）で、枠に枠側丁番を同梱のネジ（M5×22）で取り付けてください。

②扉を枠に吊り込んでください。
扉は左右兼用になっていますので右吊・左吊に注意して扉側丁番を取り付けてください。

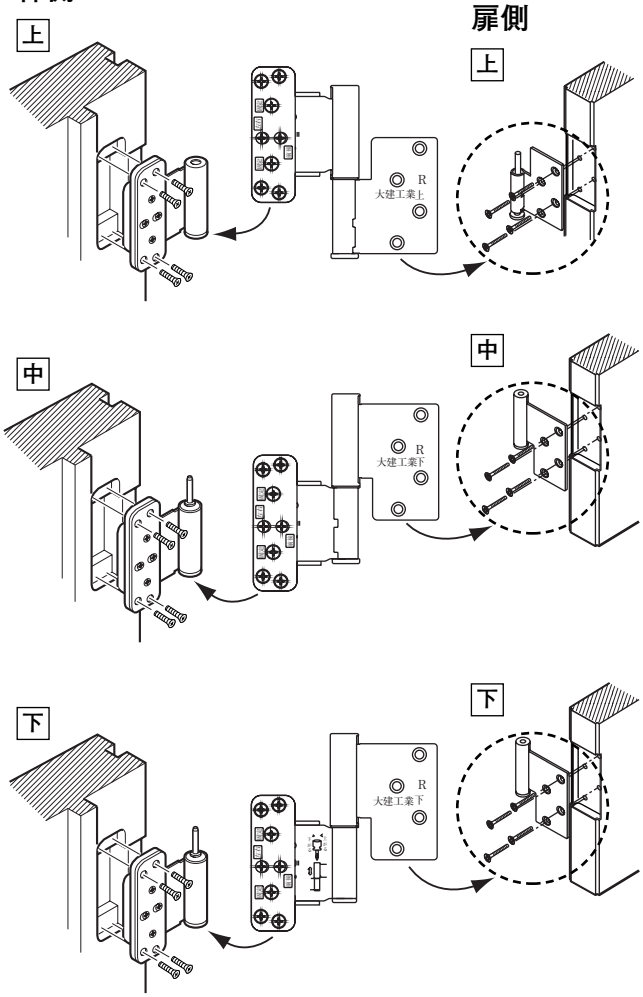
①枠側の中丁番のつまみを下げた状態で固定してください。

※つまみは下げた状態で回転させる事により固定できます。



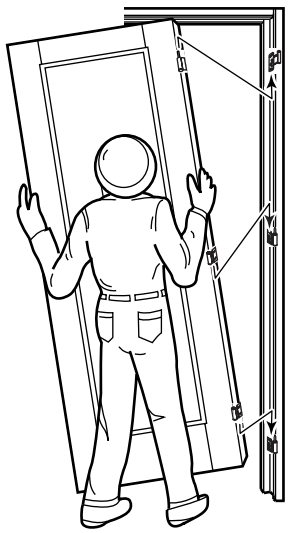
中丁番

枠側　　扉側



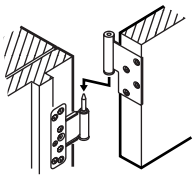
※扉側丁番の中用と下用は同じものです。

⚠ 注意
全てのネジを取り付けた後再度増し締めをしてください。

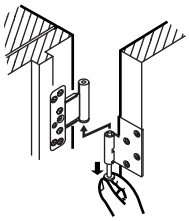


⚠ 注意
丁番の上用・中用・下用を間違えないようご注意ください。

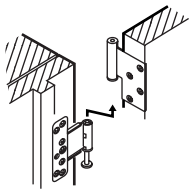
②次に、枠側丁番（下）の軸に扉側丁番（下）をのせてください。



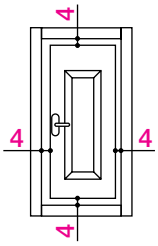
③扉側丁番（上）のつまみを下げて枠側丁番につけてください。
※中丁番同士が当たって扉が吊り込めない場合は、中丁番の上下調整ビスを反時計回りに回してください。



④枠側丁番（中）に扉側丁番（中）を合わせ、つまみを戻してください。

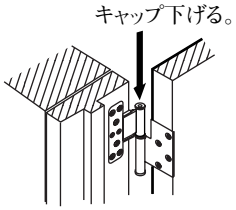


⚠ 注意
扉と枠の隙間が右記の寸法になっているか確認し、大きく違う場合は枠の建てつけ調整を再度行ってください。



⑤中・下丁番の軸が見えないように、中丁番・下丁番の上下調整を行ってください。

⑥枠側丁番上のキャップを下げてください。



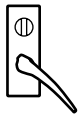
3

把手座とレバーハンドルを取り付けてください。

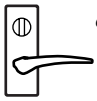
取付方法は把手セットに印刷されている取付説明書をご覧ください。

レバーハンドルの向きは

ドアが開いた状態では



ドアが閉じた状態では



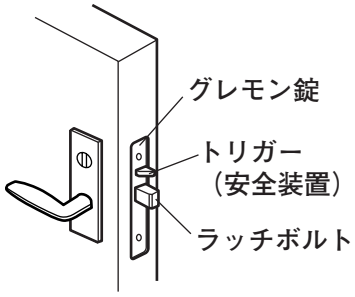
となります。

4

レバーハンドルの作動を確認してください。

トリガーを指でおさえてレバーハンドルを回すと、ラッチボルトが出ます。

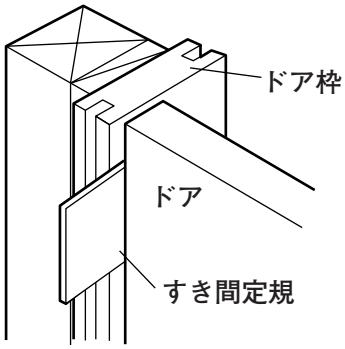
⚠ **注意** ラッチボルトが出たままの状態で、ドアの開閉を行うと、ドア枠に傷をつける恐れがあります。



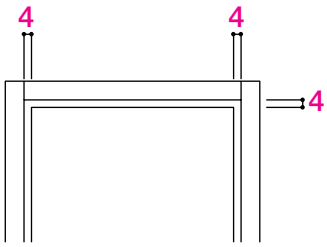
5

ドアと枠のすき間が正しい寸法となっているかを同梱のすき間定規（ドア枠に貼り付けてあります。）で確認してください。

「レバー操作がかたい」「ドアがうまく閉まらない」等、異常があればドア枠の建付け精度を再度確認してください。

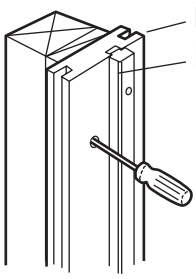


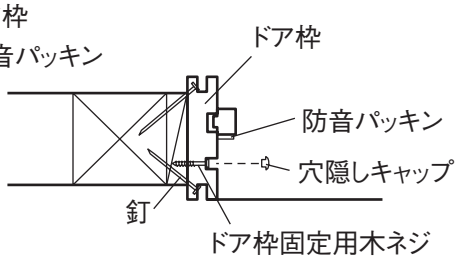
ドアと枠のすき間



6

ドア枠固定用木ネジ（枠に同梱品）でドア枠を開口部に止め付け、更に見切りの溝より釘または木ネジ（現場手配）でしっかりと固定してください。（必ずリード穴を開けてください）





7

再度、ドアを閉め込み、レバーハンドルを回し異常がないか確認してください。

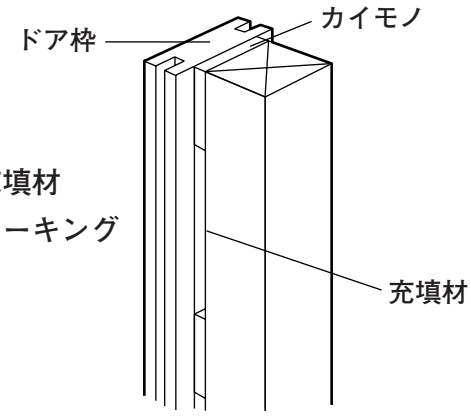
異常があれば、ドア枠の建付け精度を施工手順 **1** に従い調整してください。

8

ドア枠と開口部のすき間があれば音が漏れ、防音ドアの性能が発揮できません。すき間を次の材料で埋めてください。

- ダイケン遮音隙間充填材
- ダイケン気密遮音コーキング
- 石膏
- ダイケン遮音シート

など



9

扉を開閉して、扉があたる場合は、調整丁番にて扉の傾きを調整してください。必要に応じて、調整ラッチ受け、調整戸当り等を調整してください。調整方法は次頁を参照ください。

手順

固定ビス ゆるめる

↓

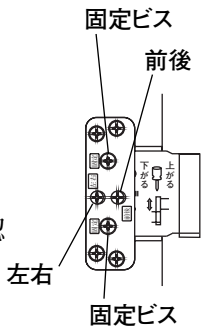
調整ビス で調整

↓

開閉して隙間等確認

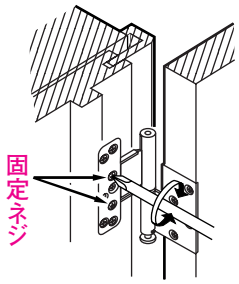
↓

固定ビス **しめる**



⚠ 注意

固定ネジは確実に締めつけてください。締めつけがゆるいと使用中に固定ネジがゆるみ丁番が破損したり扉が脱落する恐れがあります。



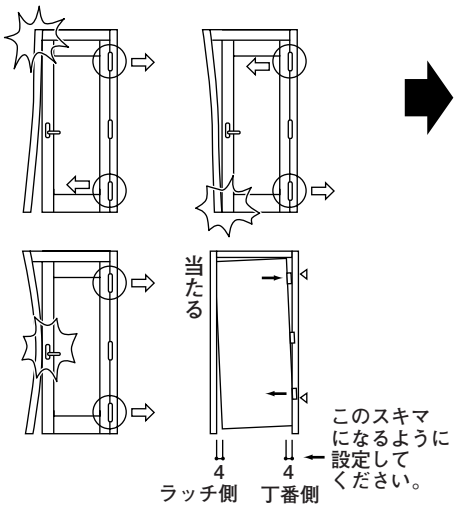
⚠ 注意 丁番の調整には必ず手動ドライバーをご使用ください。

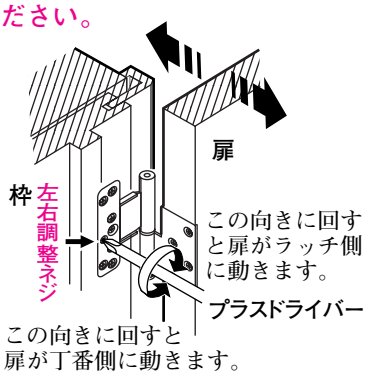
左右方向の調整

(調整可能範囲 5 mm)

扉を開閉して、枠とあたる部分が下図の位置の場合、○印のついた丁番を矢印：⇨の方向に調整してください。

⚠ 注意 左右調整は上・中・下丁番全ての固定ネジを緩め上・下丁番を調整後中丁番を調整してください。



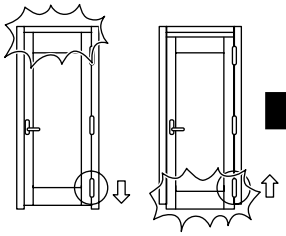


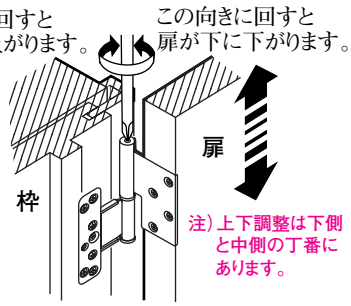
＊扉が自動的に開閉してしまう時は、扉が枠にあたらない範囲で以下の調整を行ってください。
・扉が閉まってくる場合…上丁番にて扉を丁番側に寄せてください。
・扉が開いてくる場合……上丁番にて扉をラッチ側に寄せてください。

上下方向の調整

(調整可能範囲 6 mm)

扉を開閉して、枠とあたる部分が下図の位置の場合、○印のついた丁番を矢印: ⇨ の方向に調整してください。





⚠ 注意

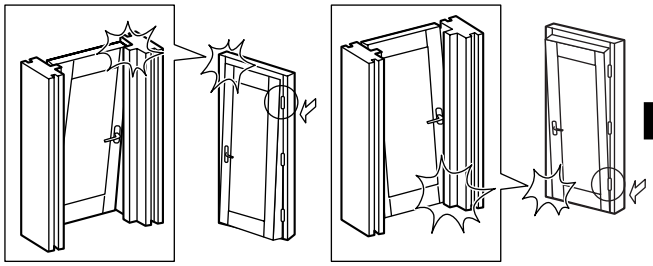
上下調整は下側,中側丁番ともに行ってください。

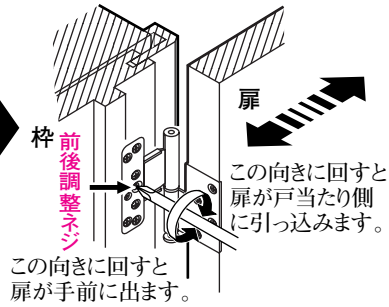
⚠調整後、上丁番枠側および中丁番扉側キャップを軸がかくれる位置に移動してください。

前後方向の調整

(調整可能範囲 3 mm)

扉を開閉して、枠とあたる部分が下図の位置の場合、○印のついた丁番を矢印：⇨ の方向に調整してください。



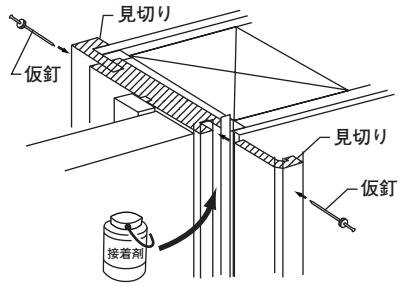


⚠ 注意 前後調整は上・中・下丁番全ての固定ビスを緩め上･下丁番を調整後中丁番を調整してください。

10

壁の施工が終了してから、見切りを取付けてください。

見切り用溝に木工ボンド（現場手配）を塗布し、見切りを仮釘で固定してください。その際、ラッチ受座位置の部分には木工ボンドを塗布しないでください。

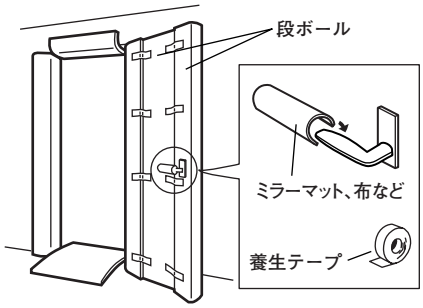


11

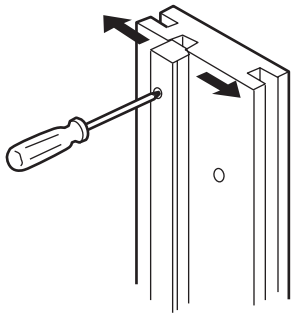
工事が完成するまで扉・枠を段ボールなどで養生してください。
把手金具・丁番は布・ミラーマットなどで養生してください。

粘着テープを直接ドア表面に貼らないでください。表面材を傷める恐れがあります。

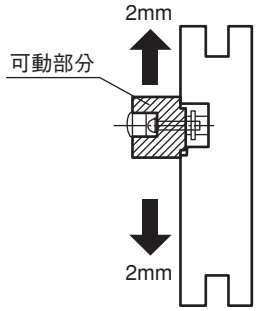
AH3の扉表面には傷保護シートが貼り付けしてあります。引渡しの際にはがしてください。



調整戸当りの調整方法



気密パッキン付き調整戸当り



プラスドライバーで、戸当り固定ビスを軽くゆるめ、戸当りを前後に調整してください。
調整がおわりましたら戸当り固定ビスを元通り締め直してください。締め方が足りないと音洩れの原因となります。その後、同梱している穴隠しキャップを取付けてください。

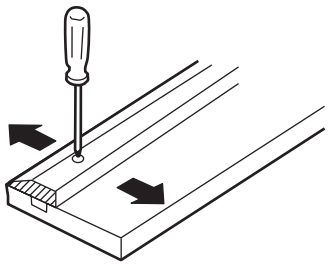
⚠ 注意

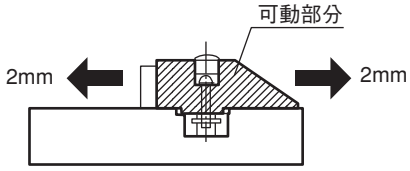
戸当りの調整は必ず手動ドライバーをご使用ください。

⚠ 注意

戸当り固定ビスをゆるめすぎると固定ビスが抜け落ちますのでゆるめすぎないようご注意ください。

沓摺（調整タイプ）の調整方法





気密パッキン付き調整沓摺

プラスドライバーで沓摺固定ビスを軽くゆるめ、沓摺を前後に調整してください。
調整がおわりましたら戸当り固定ビスを元通り締め直してください。締め方が足りないと音洩れの原因となります。その後、同梱している穴隠しキャップを取付けてください。

⚠ 注意

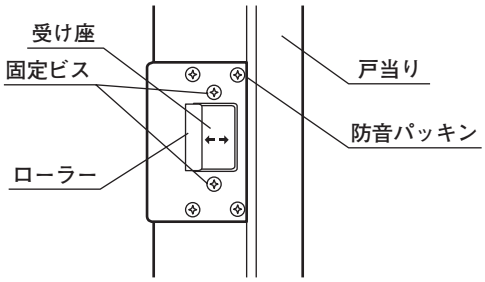
沓摺の調整は必ず手動ドライバーをご使用ください。

⚠ 注意

戸当り固定ビスをゆるめすぎると固定ビスが抜け落ちますのでゆるめすぎないようご注意ください。

調整受け座の調整方法

ドアの閉まりが固い時、また防音パッキンとドアの当たりが不十分な時など、以下の手順で調製してください。



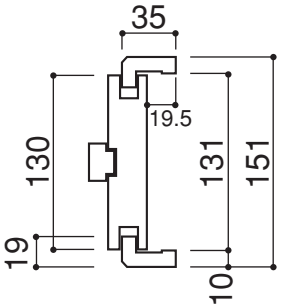
1．固定ビスをゆるめてください。（上下2ヶ所）
2．受け座を動かします。ドアの閉まりが固い時は、受け座を防音パッキンのある側と逆方向へ、また防音パッキンとドアの当たりが不十分な時は受け座を防音パッキン側へ移動させます。
3．固定ビスをしめてください。
4．ドアを閉めて、防音パッキンとドア裏面とが四周とも均等に密着しているかどうか、確認してください。調整が不十分な場合は1～3を再度行います。

製品寸法図 （単位はｍｍ）

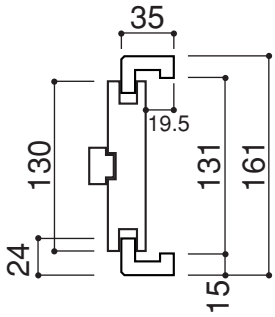
下図は右吊元

見切A（シンプル）

横　用

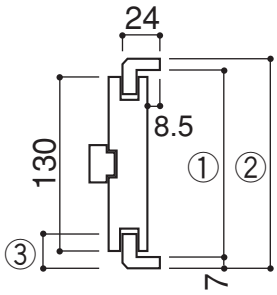


縦　用

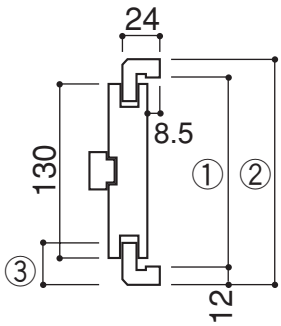


見切B～E（シンプル）

横　用



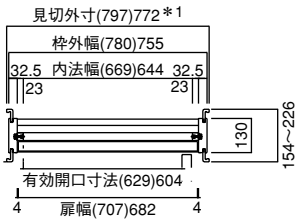
縦　用



見　切		B	C	D	E
①壁厚		131～148	148～166	166～184	184～202
②枠外寸	横用	145～162	162～180	180～198	198～216
	縦用	155～172	172～190	190～208	208～226
③見切サイズ	横用	22	31	40	49
	縦用	27	36	45	54

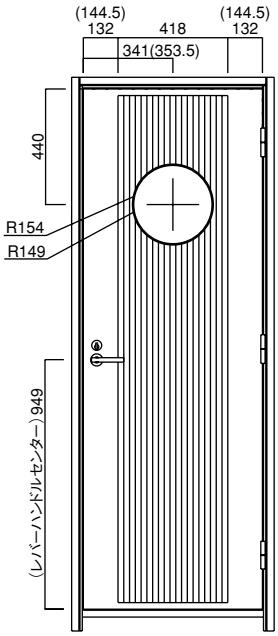
ＡＨ１

横断面図

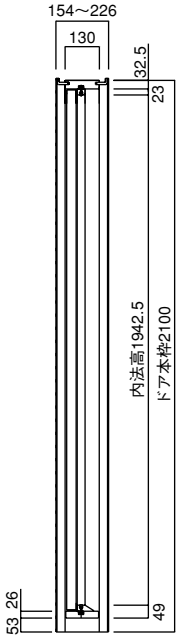


（　）内は780幅タイプ

正面図



側面図

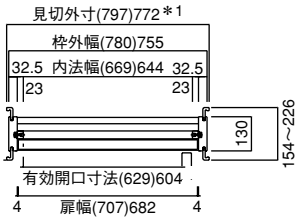


＊1　見切外寸　（　）内は780幅タイプ
　　Ａ見切　　：(819)794
　　Ｂ～Ｅ見切：(797)772

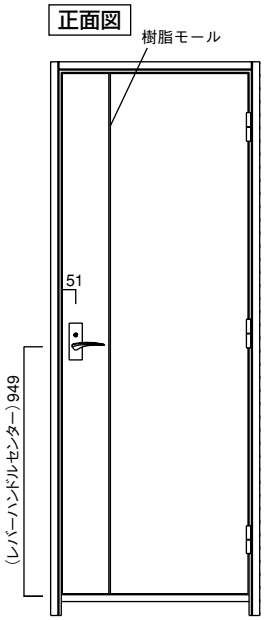
＊2　見切外高
　　Ａ見切　　：2119
　　Ｂ～Ｅ見切：2108

ＡＤ３

横断面図

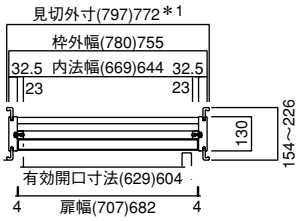


正面図

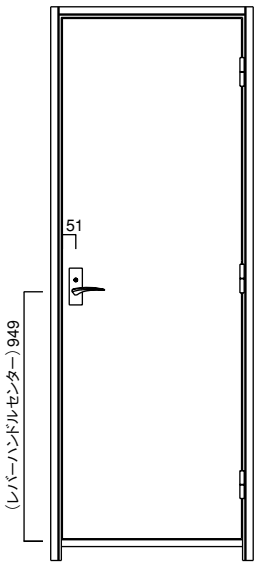


Ａ００／ＡＵ０

横断面図

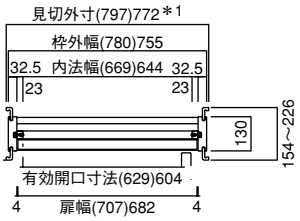


正面図

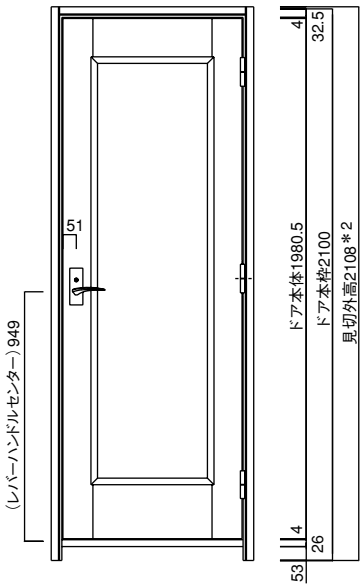


Ａ０１

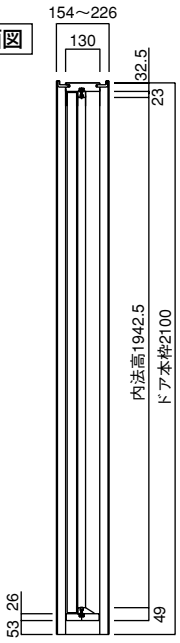
横断面図



正面図



側面図

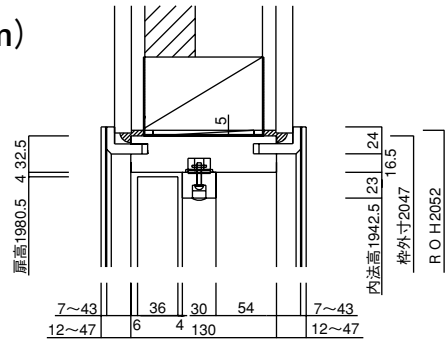


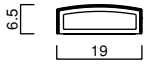
施 工 例

（単位はmm）

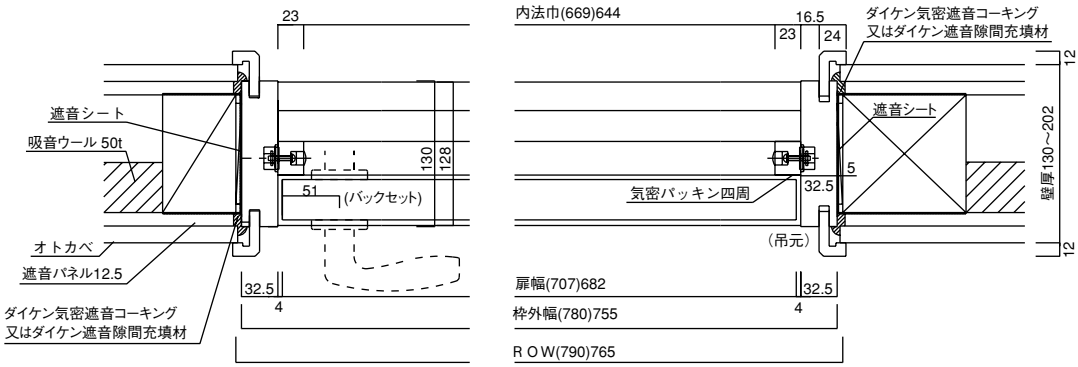
防音ドアA防音タイプ

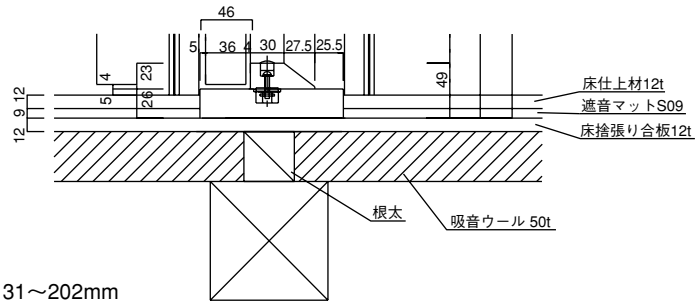
下図は右吊元の施工例
（　）内は780幅タイプ





大型気密パッキン
（戸当りに４辺取り付け）



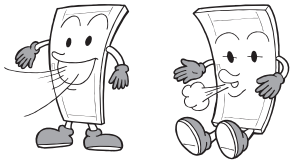


※壁厚131～202mm

木質材料の性質について

木質ドアの「反り」について

木材を原料とする木質材料（合板、パーティクルボード、MDFなど）を加工して作られた内装ドアは、空気中の水分を吸収したり放出したりすることにより、伸縮する特性を有しています。この空気中の水分の吸収・放出は内装ドア周辺の温度、湿度等の環境条件の変化に応じて発生するものであり、自然現象といえます。特に、内装ドアの室内面側と室外面側の環境条件が大きく異なる場合、「反り」という現象が発生することがあります。



「反り」の発生を出来るだけ抑える方法について

ご使用の環境や設置場所によって「反り」が発生する場合があります。「反り」の発生をできるだけ抑える方法として、次のことにご注意ください。

①エアコン、暖房器具等をお使いになる場合は、内装ドアに直接熱風、熱気が当たらないようにしてください。

②夏場の冷房、梅雨時の除湿、冬場の暖房等により、室内と室外の環境条件の差を極端に大きくしないでください。

③内装ドアに直接日光が当たる場合は、窓辺にカーテン、すだれ等を設けて日光を遮ってください。

発生した「反り」は室内側と室外側の環境条件を近づける事によって、小さくなる事があります。

大建工業株式会社

〒530-8210 大阪市北区堂島1丁目6番20号 堂島アバンザ22Ｆ

DAIKENのホームページアドレス http://www.daiken.jp/

お問い合わせは
建築音響部　サウンドセンター
（東京）TEL 03（6271）7785
（大阪）TEL 06（6452）6141